

1974年 (39歳)

個展 (浦河町福祉センター)  
第7回北海道秀作美術展 (北海道立美術館) 《男の像》



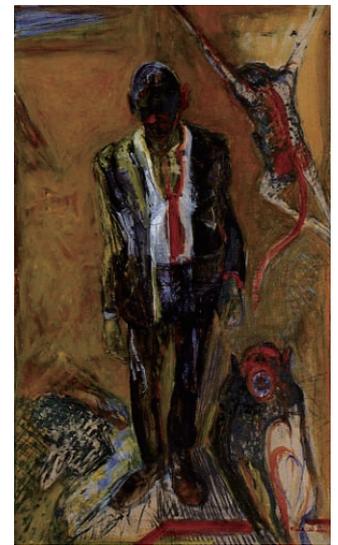
《野生の午後》  
1974-75  
年油彩、木炭、キャンヴァス  
193.6×130.5 cm

1975年 (40歳)

第3回写実画壇展 (東京・上野の森美術館) 《トワレ》《男の像》《父子像》  
実写画壇会員  
30周年記念全道展 《人間の風景》  
大同ギャラリー会館記念さっぽろ現代洋画展 (札幌・大同ギャラリー) 《男の像》  
第8回北海道秀作美術展 (北海道立美術館) 《父子像》  
個展 (札幌時計台ギャラリー)  
個展 (東京・文藝春愁画廊)  
第2回札幌時計台文化会館美術大賞展選抜出品。美術大賞候補賞受賞 《踊子》

1976年 (41歳)

第50回国画会展 《踊子》  
第4回写実画壇展 (東京・上野の森美術館)  
第31回全道展 《野生の午後》  
全道展札幌会員展 《札幌・大同ギャラリー》  
個展 (札幌時計台ギャラリー)  
第3回札幌時計台文化会館美術大賞展選抜出品 《オーヴァをはおる男》  
第9回北海道秀作美術展 (北海道立美術館) 《野生の午後》  
個展 (浦河町福祉センター)  
全道展札幌会員デッサン展 (札幌・大同ギャラリー)



《人間の風景》  
1978年  
油彩、木炭、キャンヴァス  
193.7×112.5 cm

1977年 (42歳)

北星学園大学非常勤講師 (芸術〔美術〕担当)  
第51回国画会展 《野生の午後》  
国画会を退会  
個展 (苫小牧画廊)  
第32回全道展 (北海道立近代美術館。以下同会場) 《野生の風景》  
旭川秀作美術展招待出品 (旭川・マルカツ6階特設会場)  
個展 (札幌時計台ギャラリー)  
北海道新聞 (夕刊) にエッセイ「風と釣り」と私」を連載 (11/1～11/26 21回)  
個展 (東京・文藝春愁画廊)

1978年 (43歳)

洋画家の墨彩画展 (札幌・エルム画廊)  
第1回北海道現代美術展 (北海道立近代美術館) 《卵のある静物》《料理人》  
朝日カルチャー絵画教室講師  
全道展札幌会員小品会 (札幌・大同ギャラリー)  
第33回全道展 《人間の風景》  
第1回太動展「生きる」(札幌・ギャラリー太動)  
道内作家油絵展 (札幌東急)  
個展 (苫小牧画廊)  
第124回札幌成人学校講師「わたしの美術論」  
個展 (札幌時計台ギャラリー)  
会館記念札幌在住洋画招待作家展 (札幌・北24条ギャラリー)

1979年 (44歳)

サムホール秀作展 (札幌・エルム画廊)  
第2回北海道現代美術展 (北海道立近代美術館) 《生命のオルガン》《生命のダンス》  
新春招待作家展 (札幌・HBC三条ギャラリー)  
個展 (浦河町福祉センター)

「ここ数年、僕の仕事は、ますます生命主義といっているような方向に歩き出しているようだ。朝、目覚めると、感覚が目まいをおこすような新鮮で、生まれて初めて、それらを見るような不安のなかにある生命の感覚を手探りする。朝めしを食うと感覚が日常性のなかに埋没してしまうので、やめることにした。それにしても、なんと存在するものは日常性や概念や観念の底に沈んでいるのだらう。僕は存在するもの達が、なにもともわからなくなるような、きらめきの世界に入りこもうと、毎日うろろしているようだ。僕はそれを実存感覚とか、サン・シオンという言葉にしているのだが、それらが逃げないように、絵画における完成とか、仕上げという行為は、やめなければならぬと思っている。キラッと輝くものがあれば、生命が燃焼する密度が絵画の密度だと思っている。生命の原始性とか野生へのさそいということの前で毎日、さまよっているのが今の僕のようにだ。」  
第31回全道展図録 (1976年よ)